

校長室通信

令和8年2月3日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

令和7年度も残すところ2か月となりました。しかし、6年生にとっては卒業式が3月17日ですから、1か月半、1~5年生にとっても実際の登校日は30日程度です。今の学年で学んでおくべきこと、できるようになっておくべきことが、どのくらい身につけているのか振り返り、次の学年に向けて残された日々を充実させてほしいと思っています。

子育ての幸せ

朝、なかなか起きない子どもを「はよ起きんね！」とたたき起こし、自分の出勤の準備もしながら朝ご飯を食べさせ、「遅刻するよ！」と急かしながら学校に行かせようとすると、「あっ、今日絵の具がいるんやった。」と部屋に探しに行くわが子にイライラする。やっと学校に行ったと思ったらテーブルの上には水筒が置きっぱなしで…。

夕方仕事から家に帰ると、ゲームに夢中で宿題もしておらず、返ってきたテストの結果は悲惨。部屋で勉強し始めるのかと思ったら、「あっ、宿題のドリル、学校においてきちゃった。」という言葉に唾然。やっと寝たかと思ったら、布団の中でこっそりスマホでYouTubeばかり見ている姿にさらにイライラが…。

毎日の子育てって、大体こんなもので、喜びを感じている時間よりも、イライラやハラハラを感じている時間のほうが長いのではないのでしょうか。子育てだけでなく仕事や家事に追われていると、その時その時の対応になりがちです。

どうしても、その場、その時の子どもの様子だけで判断してしまうと、できていないことばかり目についてしまいます。時には、「いつの間にかこんなこともできるようになったんだな」と成長に気づき、「20年後、こんな大人になってくれていたらなあ」と想像する時間を持ちたいものです。

もう15年以上前の、ある1年生のクラスでの出来事です。その日は、図工で自画像を描くために手鏡を持ってくるようになっていました。授業が始まって、みんなが手鏡を机の上に出したのに、一人の女の子がうつむいたまま座っています。手には何か持っているようです。先生は、その子のところに行き、手に持っているものを出すように促しました。今にも泣きそうなその子の手には、小さく折りたたまれた便せんが1枚握りしめられていました。

先生は学年通信でも、学級通信でもお知らせし、前日の帰りの会でも「手鏡を忘れないように」とお知らせしていました。その子に事情を聴くと、「お母さんは仕事が忙しくて、学校のお便りを見てくれないし、話も聞いてくれない。だから自分で学習道具を用意しなくてはいけない。先生が”テカガミ”と言っていたので、手紙を書く紙か何かと思って、この紙を…」と言って泣き出してしまいました。

その日の夜、母親が仕事から帰ってくる時間を見計らって担任は電話で今日のことを伝えました。母親は「最近離婚して仕事を変えた。私自身にも余裕がなくて、子どもの様子を見てあげられなかった。」と言って悔やんでいました。

その後、母親は仕事を調整し、子どもの話を聞く時間を確保しました。すると、学校でのその女の子の表情が日に日によくなっていきました。

足るを知る者は富む

これは、老子の言葉で、今あるもので十分だと理解し感謝できる人は、たとえ金銭的、物質的に豊かなくても、心豊かで幸福である、という意味です。

情報過多の現在、より便利でより新しいものが次々と紹介され、周りと同じじゃないと取り残されるのではないかと錯覚してしまいます。しかし、我々大人が小学生だった時には、スマホなんて持っていなかったけれど、それを不便だとも不幸だとも思ったことはありませんでした。むしろ、親と一緒に自転車の乗り方を練習したり、運動会の頑張りをほめてもらったりしたことのほうが記憶には残っているのではないのでしょうか。

この時期の子育ては、過ぎてしまうとあっという間です(私の実感です)。自分を頼りにしてくれるわが子がいる幸せをかみしめて、日々の子育てに向き合っていたいただきたいと思います。